

## 課題認識：時代にそぐわない部分が増したデータ収集の業務フロー

- 業務において問題事象が発生する原因
  - ・原因の追究は、業務の構成、仕様（以下「業務フロー」という。）についても行うべき
- 国民の公德心に依拠した業務フローが限界
  - ・調査への協力拒否の増加が示すように、「公の利益への寄与は当然」との国民意識に変化
  - ・顕彰等による従来型のモチベーション維持の仕組みが限界
- 時代にふさわしい業務フローへ
  - ・自然に、可能であれば国民の前向きな協力を得て、データ収集を実現
  - ・激しく変化する国民意識、行動の奔流を見極めた、その時点で最適なデータ収集を実現
  - ・時代にふさわしい国民、事業者の協力を得やすいデータ収集を実現（メリットの訴求）

## 提案 1：時代にふさわしく、最適な業務フローへ

- Webサービス上で利用者のメリットを訴求しデータ収集
  - ・家計簿、レシートデータ化サイトとの連携によるデータ収集
  - ・クレジット、各種キャッシュレスサービス、各種ポイント制度等との連携によるデータ収集
  - ・Web上の公告アンケート等によるデータ収集
- 行政手続き等に合わせてデータ収集
  - ・税申告時（法人税、消費税還付等）に、根拠となる関係統計データ提出をルール化
  - ・求人募集時、社会保険手続き時に、根拠となる関係統計データ提出をルール化
  - ・IR情報開示時に、根拠となる関係統計データ開示をルール化
- システム、クラウドでデータ収集
  - ・給与、財務等の業務システム提供企業との連携で、システムに統計作成機能を標準装備
  - ・業務クラウドサービス提供企業との連携で、サービスに統計作成機能を標準装備
- ビッグデータでデータ収集
  - ・ビッグデータを提供、分析する事業者を支援するなど、協力企業を拡大
  - ・ロボットによるWeb巡回調査、AIによる閲覧行動分析等

## 提案 2：EBPM対応、データサイエンティストによる統計行政の充実強化

- 迅速、最適な政策立案を支えるEBPMを実効あるものとするリアルタイム統計調査
  - ・Web上の公告アンケートを活用するなどした、リアルタイムのオンライン調査の実施
  - ・バーチャル統計協力員による、リアルタイムのWeb調査（ポイント付与等のメリット）
  - ・ロボットによるWeb巡回調査、AIによる閲覧行動分析等（再掲）
- データサイエンティストを前面に出した統計行政の充実強化
  - ・データサイエンティストを目指す人材受入等による、統計関係職員のモラル向上
  - ・政策立案に関与するデータサイエンティストの能力担保（国家資格化等）
  - ・行政幹部職員のデータサイエンティスト養成研修の受講、認定試験の受験推進

## 留意事項

- ・ I C Tを日常的に使う世代とそうでない世代、また世代内でも一様ではないため、調査の特性を見極め、既存手法との併用、反映割合調整などで順次移行させる措置が必要
- ・ 特にリアルタイム性を重視したデータ収集には、相応の予算措置が必要
- ・ I C Tをベースにした調査は、集約効率性が高い反面、個別に取り組むと紙調査と比べて効率性が大きく損なわれるため、強い権限と集中的な管理の下で取り組むことが必要